

## 語学教科書とジェンダー・バイアス的な表現について

### Concerning Gender-bias within Japanese and Korean Language Textbooks

足立 祐子\*

(y nao@isc.niigata-u.ac.jp)

鄭 賢熙†

(jeonghyunhee@hotmail.com)

キーワード：ジェンダー・バイアス、日本語教科書、韓国語教科書、挿絵

---

We have examined whether ideas containing gender bias occur in Japanese and Korean language textbooks used throughout Japan. Our analysis show the presence of stereotypes linked to gender differences within these textbooks, mainly occurring in cut-in illustrations and text in the format of conversation dialogues. Among these, ideas which show a pre-established assumption of the gender of a person solely on the basis of the exercising occupation or performing role within a family home were especially common.

Language school teachers should be aware of those biased ideas not only related to gender bias, but also associated with cultural differences as well. Moreover, we believe there is a further need for more appropriate teacher's training programs in order to encourage gender bias free thinking and avoid culturally induced misconceptions.

---

#### 1. はじめに

野呂 (2001) は、言語学の分野において、以下のように指摘している。

「日頃耳にする会話、ニュース、目にする新聞記事、コマーシャル等々において焦点となっているテーマや問題とは全く別の次元で、一種の『不快感』『居心地の悪さ』を感じる時がある。具体例をあげよう。大学の統語論の講義において、先生が『太郎は花子を殴った』『花子は太郎に殴られた』という例文を黒板に書いたことがある。ここで問題となっているのは統語構造であって、この例文に埋め込まれている、筆者が感じる不快感のはけ口はどこにもない。それに対し文句を言おうとすれば焦点のずれた抗議となり、たちまち、教室にしらけた空気が流れるだろう。せいぜい『じゃあ、花子を次郎にしましょう』で授業は先に進められることになる。しかし、私的な会話ではなく公的な授業という場で、このような一男が『な

---

\* 新潟大学国際センター 助教授

† 新潟大学大学院現代社会文化研究科 博士課程一年

ぐる』という動詞を用いた能動文、女が受動文の主語となる－発話が出るのは、一方では語る側に無意識な一定の男女観があり、他方ではその無意識を許容する社会文化的な土壌があるということである。また、これを発話の聞き手の解釈という点から見れば、これを聞いて苛立ったり悲しんだりする人がいる一方で、全くなんとも感じない人がいるということである。」(注1)

野呂が指摘している問題は、「男女の役割について固定的な観念を持つこと、社会の女性に対する評価や扱いが差別的であることや社会的・経済的実態に関する女性に対する神話を指すこと」、いわゆるジェンダー・バイアスと関連している。ジェンダー・バイアスの問題は主観性が影響しているので簡単に結論を出せない問題であるが、筆者たちは教育機関で語学を教えている教員として語学教科書にもこのようなジェンダー・バイアスに関係するような表現があるのかという点に関心を持った。

本稿では、語学教育の教科書でジェンダー・バイアス的な表現に関して問題があるのかどうかを調べ、そのような問題があるとするれば、今後語学教育関係者としてどのように対応していくべきかについて考察をおこなう。

## 2. 分析の方法

### 2.1 とりあげた教科書について

日本で使用されている外国人向けの日本語の初級教科書と日本人向けの韓国語の初級教科書を取りあげた。分析をおこなったのは、以下の教科書である。

#### ◆日本語教科書 (計8冊)

- ①「文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」(1987年初版 現在は「新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」に改訂)  
「新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」(2000年初版) 凡人社 (以下「文化初級」と略す)
  - ②「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」(1998年初版) スリーエーネットワーク (以下、「みんなの日本語」と略す)
  - ③「初級日本語げんきⅠ・Ⅱ」(1999年初版) ジャパンタイムズ (以下、「げんき」と略す)  
上記の日本語教科書を取りあげた理由は、大学等の教育機関でよく使用されている代表的な教科書であるからである。
- ①の教科書は、場面や状況を中心に言語運用力を高めることに重点を置いている教科書である。2000年に改訂された「新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」は、「文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」をほとんど受け継ぎ、練習問題や色刷りを多くしたものである。
- ②の教科書は、財団法人海外技術者研修協会が技術研修生向けに出版した「日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ」(1981年初版)を中心に汎用性を高め、さまざまな学習者向きに語彙や表現などを改訂したものである。文型積み上げ式の教科書で、やさしい文法項目からむずかしい文法項目へ積

---

(注1) 野呂 (2001) pp.13-14

み上げていくことで日本語学習を進める方法と採用している。

③の教科書は、本学国際センターの日本語等研修コースで使用している教科書である。

“An Introduction to Modern Japanese”（1977年初版）の流れを汲むもので、文型積み上げと言語運用の両方に着眼して作られたものである。留学生が日本語を学習することを念頭に置いている。

◆韓国語教科書（計10冊）

- ①「はじめての韓国語」 李昌圭 ナツメ社 2002年初版
- ②「フリーウェイ韓国語」 原谷治美 ナツメ社1997年初版
- ③「コミュニケーション韓国語」 長谷川由起子 白帝社2001年初版
- ④「スタンダードハンゲル講座」 入門・会話 梅田博之・金東俊 大修館書店1997年初版
- ⑤「今すぐ話せる韓国語」 木内明 東進ブックス 1998年初版
- ⑥「書いて覚える初級朝鮮語」 高島淑郎 2002年改訂版
- ⑦「しっかり学ぶ韓国語」 キムユホン ベレ出版 1999年初版
- ⑧「はじめての韓国語」 崔鶴山 白水社 2003年初版
- ⑨「韓国語レッスン初級Ⅰ・Ⅱ」 金東漢・張銀英 スリエーネットワーク2003年改訂版

\*教科書の選択基準

本稿で取り上げた韓国語教材は「日本の学校における韓国朝鮮語教育－大学等と高等学校の現状と課題－」（2005）の調査（注2）による大学等で使われている教材の中から選択した。4年制大学及び短期大学は2002－2003年度、高等学校は2001年度の使用教材を使用している大学・高校数の多い順にあげたものである。各機関で使用されている教材は大きく韓国で出版されたもの、日本で出版されたもの、自作教材・自習プリント教材に分けられる。本稿では調査で取り上げられた教材の中で、日本で出版された教材に限り分析を行うこととする。

\*教科書の構成

本稿で取り上げた韓国語教材はすべて入門書である。

①から⑤までは会話を中心とした教材で、文字・発音編、会話編、資料編に構成されている。①から③は全体の会話がストーリー性を持つもので、④、⑤は各課独自の会話文を設けている。これらの教材は聞く、話す、読む、書く、の4技能のうち、話すことに重点をおいて言語運用能力を育成するようになっている。

⑥、⑦は教材のタイトルにも書いてあるように書くことを中心とした教材である。大きく文字・発音編、文法・文型編と分けることができる。会話文もあるが、話すことが中心ではなく書いて覚えるように構成されている。

---

（注2）田所（2005）pp.59-63。

⑧、⑨は4技能が充実した総合教材で主に、学生やビジネスマンのためのものである。⑨は日本語教材の②と構成が同じく文型積み上げ式で、文字発音編、基本文型編、会話編、練習編となっている。

## 2. 2 分析の方法

日本語の教科書分析を足立が担当し、韓国語の教科書分析を鄭が担当した。おおまかに、①言語的表現（語彙）、②会話に出てくる登場人物の状況、③挿絵、の3点に分類し、男女差のある表現や男女の役割分担や本質について固定的に扱われているものや偏見と思われるものを調べた。また、男女に関する表現を中立的に扱っているものも取り出す作業をおこなった。

## 3. 分析の結果

### 3. 1 日本語の教科書の場合

#### 3. 1. 1 言語的表現

男女差を表す言語的表現は、社会の慣習として使用されているものが多い。ここでは各教科書の「ご主人・奥さん」、及び「～わ（終助詞）」などの取り扱い方について述べる。

##### ◆「ご主人・奥さん」

3種類の教科書すべて、本文（会話の部分やテキストの部分）では、「ご主人・奥さん」という語彙がない。練習問題や解説や登場人物の説明として出てくる。興味深かったのは、「げんき」の取り扱いで、ご主人・奥さん以外に「だんな、うちの人、女房、ワイフ、かみさん」などをあげ、注として「人によって使い方が異なる」としている。「みんなの日本語」の分冊である文法説明書を確認したが、「げんき」のような注釈は見られなかった。

分析者はこの表現がジェンダー・バイアスを引き起こすとは考えないが、欧米系の学生からは、語源に問題があるのではないかという質問を受けることがある。「げんき」のような取り扱い方が日本社会の状況理解を容易にすると考える。また、教授者の説明によって中立的な解釈ができると考える。

##### ◆女性言葉としての「～わ」や「～の」

「文化初級」のみ本文の会話で、「いいわね。いつ行く?」「いいわよ。」「京子さんに電話してみるわ。」「行きたいけど、明日はアルバイトがあるの。」（第25課）「今日はとても楽しかったわ。」（第28課）と登場人物が言っている。「みんなの日本語」「げんき」ではこのような表現はない。しかしこの表現は、男性の学習者が使わないように教師が注意を促す点であるので、ジェンダー・バイアスの問題点としてとりあげる必要はないように考える。

#### 3. 1. 2 会話などに出てくる登場人物の状況

教科書の会話や練習問題に出てくる登場人物の状況でジェンダー・バイアスの表現と関係があると思われるのは以下のとおりである。

【文化初級】

場面	登場人物の状況
①家族を紹介する	母親は専業主婦。
②帰宅した夫が妻の伝言メモを見る	★夫が職場から帰宅するが、妻は外出中。夫の食事について伝言メモを残す。
③病院で診察を受ける	医者とは男性、看護師及び受付は女性。
④テレビもしくはラジオの料理教室の番組	料理研究家（女性）とアシスタントのアナウンサー（女性）。 →★改訂版では、料理研究家は男性。
⑤デパートに親子づれで買い物に行く	子どもづれの母親。父親はいない。週日の買い物を連想する。
⑥日本語学校で進路指導をおこなう	★教師は男性も女性も登場する。
⑦知り合いの家に訪問する	出迎えるのは女性（主婦をイメージしている）。 →★改訂版では夫婦で出迎えている。練習問題にもさまざまな訪問パターンを出しているが、出迎え側は女性が多い。
⑧ドライブなどに誘う	誘うのは男性、誘われるのは女性。女性はお弁当を作って持って行くこと約束する。
⑨ホテルのフロント	★フロントにいる人は男性も女性もいる。
⑩工場に見学に行く	工場で説明をする人は男性。 →★改訂版では、工場で説明する人は女性になっている。
⑪子どもの将来のことで専門家に相談する	★相談するのは母親ではなく、両親。
⑫スポーツ選手の母親がインタビューに答える	専業主婦の母親がどのように娘を育てたかを説明する。
⑬経済学の講演会を聞きに行く	講演会を聞きに行くのは会社の同僚二人（二人とも男性）。 →★改訂版では練習問題に職場の男女を登場させている。
⑭友だちを家に招き食事をする	★料理を運ぶのを手伝う夫。

「文化初級」は日本語学校で勉強する留学生を中心としながら、その一方で日本人だけでコミュニケーション行動をとる場面も出てくる。ここで取り上げているのは、①以外、登場人

物はすべて日本人である。★の部分は、男女の差をなしに中立的な状況を表していると考えられるものを示している。男性だけもしくは女性だけ登場していた旧版の場面が、改訂版になって両方登場する場面が変わっているものが見られた。

【みんなの日本語】

場面	登場人物の状況
①引越しのあいさつに行く	★男性（外国人）が引越しのあいさつに行く、対応するのも男性（日本人）。
②お花見に誘う	★職場で女性（日本人）が男性（外国人）をお花見に誘う。
③日本人の家に訪問する	★夫婦（外国人）で訪問する、対応するのも夫婦（日本人）。
③コンサートに誘う	★男性（外国人）が女性（日本人）を誘う。②の「お花見に誘う」で出てきた同じペア。
④職場の同僚で昼ごはんを食べに行く	職場の同僚は二人とも男性(外国人と日本人)。昼ごはんを食べに行く店の店員は女性（日本人）。
⑤家族を紹介する	★両親（外国人）は二人とも仕事を持っている。
⑥パーティでおしゃべりをする	ダイエットをしている女性（外国人）があまり料理を食べない。ダイエットの方法についてのおしゃべりをする。
⑦会社で出張の予定をたてる	★上司である課長が女性（日本人）、部下は男性（外国人）。
⑧マンションのエレベータの中でおしゃべりをする	★転勤になる男性（日本人）が、同僚の男性（外国人）に、単身赴任することを話す。その理由は妻（日本人）が仕事を持っているため。
⑨茶道教室	お茶の先生（日本人）もお茶を習う人（外国人）も女性

「みんなの日本語」は、男女差の役割や本質に対しての扱いに配慮しているように思われる。本文の会話に出てくる日本の会社で働くマイク・ミラーさんを中心にその友人である学生などさまざまな立場の人が出てくる。また、④の職場の同僚どうして昼食をとりに行く場合も、実際同性どうして行く機会が多いように思われるし、ダイエットにしても茶道の教室にしても関心を持つのは女性であるというのが現状である（ただし、その背景については考慮しなければならない）ことを考えれば中立的な立場をとっていると言える。

【げんき】

場面	登場人物の状況
①ホストファミリーを紹介する	ホストファミリーの母親は主婦。
②デートの約束をする	男性（日本人）が女性（外国人）を誘う。
③家族の写真を見ながら紹介する	★練習問題では母親も姉も結婚していてかつ仕事を持っている。（外国人）
④バーベキューをする	★男性（外国人）は料理をするのが好きで家でよく作る。女性（外国人）は料理をしない。
⑤歌舞伎を見に行く	男性（日本人）が女性（外国人）を誘う。②と同じペア。
⑥たけしさんが困ったことを話す（受身の練習問題）	★「ちかんにさわられた」とあるが、男性の痴漢が男性のたけしさんをさわっている状況を表す。
⑦「～てもらう」の練習問題	ホストファミリーのおかあさんにしてもらうことが練習問題の素材になっている。部屋を掃除する、アイロンをかける、迎えに来るなど、主婦としてのおかあさんが描かれている。
⑧使役受身の練習問題	★「かばんを持たされる」「買い物につきあわされる」など男性も女性もほとんど同数出ている。
⑨悩みの相談（読解練習）	★女性が悩みの相談をしている。内容は仕事をとるべきかで悩んでいる。「あなたならどう思いますか」と学習者に答えを求めている。教室内で話し合いができるように工夫されている。

「みんなの日本語」も「げんき」も状況が日本人と外国人で話す場面が多い。そのため日本人どうしの会話が多い「文化初級」より、固定化された状況を回避できるのかもしれない。「げんき」は留学生のメアリーさんがホームステイをしながら日本の生活になれていくという設定である。そして、メアリーさんがホームステイをしているホストファミリーのおかあさんは、家にいて家族のめんどろをよくみるおかあさんとしておかあさんとして描かれている。

### 3. 1. 3 挿絵

挿絵の中に最も多くジェンダー・バイアス的な印象づけが組み込まれているように考える。

#### 【文化初級】

#### ◆形容詞の表現を扱う部分（I p.28、改訂版 I p.32）

「うるさい家族のようすとしずかな家族のようすの比較」:描かれている家族は、裁縫などの家族を一生懸命する母親と対比的に休日を読書をしてのんびり過ごす父親の様子が描かれている。

「きれい」:美的なものをあらわす表現として花嫁を描いている。(すべて日本人)

#### ◆「～する」の表現を扱う部分（I p.53、改訂版 I p.61）

「そうじする」「せんたくする」「かいものする」:家事に関する動詞を扱う挿絵として動作をしている人はすべて女性（同一人物）。

#### ◆「～ています」の表現を扱う部分（I p.91、改訂版 I p.115）

職場の状況を見て、「〇〇さんは××を～ています」の表現を導く挿絵。男性社員が6人座って仕事をしている。女性社員は一人だけしかいない。立って男性社員と話をしている。(すべて日本人)

#### ◆「～て、～て」の表現を扱う部分（改訂版 I p.85）

★「文化初級」の改訂版で、「7時に起きて、新聞を読んで、会社に行きます」という場面で女性（日本人）を描いている。

#### ◆「～そうです」様態を表す表現を扱う部分（II p.33、改訂版 II p.50）

デパートで太った女性が荷物を持たず、夫とみられる男性が弱そうな様子で荷物をたくさん持っている。それを見て第三者が笑っている。(すべて日本人)

#### ◆敬語の使い方を扱う部分（II p.80、改訂版 II p.118）

働いている人はサービス業関係。宅配便の配達員以外はすべて女性。(美容師さん、飛行機の客室乗務員など) ★改訂版では男性の美容師さんが出ている。(改訂版 II p.131)

#### 【みんなの日本語】

#### ◆人を紹介する練習問題

5問あり4問が男性、1問が女性（すべて外国人）（I p.26）

#### ◆「～といました」の練習問題（I p.176）

大統領、首相、部長、社長が出てくるがすべて男性。

#### 【げんき】

#### ◆「～なくてもいいです」の練習問題（II p.105）

ホームステイ先でしなくてもいいこと（料理をしなくていい、お皿を洗わなくていい、洗濯をしなくていい、など）が練習問題としてある。挿絵はホストファミリーのおかあさんが料理を作ってテーブルに出している様子を描いている。→家事をするのはすべてホストファミリーのおかあさんである。

#### ◆「～みたいです」の練習問題（II p.108）

散らかっている部屋にごろ寝してテレビを見ている男性が挿絵にある。「この人は結婚して



いますか」という質問。→独身の男性の部屋は散らかっているという考えがある。

◆まんがを見て話を考える練習問題 (II p.297)

1978年の根本進の描いた「クリちゃん」の4コマまんが。2編あるが両方とも、専業主婦のクリちゃんのおかあさんが描かれている。

### 3. 2 韓国語の教科書の場合

#### 3. 2. 1 言語的表現

◆「남편 (主人) / 아내 (家内)」について

韓国語も日本語と同じく、夫婦の間の呼び方はさまざまである。本稿の9種類の教材では主人を表すことばである「남편」4種類の教科書で現れた。しかし、「남편」以外に主人を表す語彙は出てこなかった。一方、家内を表すことばである「아내」は4種類の教科書で現れた。それ以外にも 와이프 (ワイフ)、집사람 (女房)、부인 (奥さん) などの語彙が使われていた。しかし、これらの使い分けに関する説明は一切されてないため、理解しにくいと思われる。

◆「동생 (弟・妹)」について

韓国語では男女によって家族の呼称が違う場合がある。たとえば、男性が自分の兄、姉を呼ぶ時は 형、누나で、女性が自分の兄、姉を呼ぶ時は、오빠、언니である。反対に、男女の区別なく使用する呼称もある。それが 동생 である。동생 は日本語でいうと妹、弟である。もちろん、韓国語でも 여동생、남동생 で妹、弟と区別して使う場合もあるが、はっきり妹なのか弟なのか区別しなくてもいい場合は両方の意味を持つことばである 동생 を使うのである。9種類の教科書を調べた結果、동생 という語彙を使用しているのは6種類であった。

①の「はじめての韓国語」では「普通弟も妹も 동생 なのですが、区別するときは 남동생 (弟)、여동생 (妹) といいます」ときちんと説明し、동생 の日本語訳をつける時は妹 (弟) か弟 (妹) で表記している。

⑥、⑧は特に 동생 の説明はされてないが、会話や例文で出す場合には日本語訳として弟・妹をつけている。

⑥の50頁本文で

森: 제 동생 차입니다. 私の 弟 (妹) の車です。

53頁、CDを聞いて持ち主を当てる練習問題

(CDを聞く: 동생) 妹 / 弟

⑧の106頁練習問題回答で

우리 동생은 중학교에 다녀요. うちの 妹 / 弟 は中学校に通っています。

しかし、동생 を何の説明もなく弟としてしか訳さない教材も見られた。ここですべての例をあげるのは紙面の限りがあるので、各教科書で1つずつ抜粋して載せることにする。

②の20、21頁 그건 동생겁니다. それは 弟 のものです。

그건 동생겁니까? それは 弟 のものですか。

④の168頁 동생은 눕자마자 잠이 들었습니다. 弟は横になったとたん寝入りました。

⑦の63頁 제 동생이 아니에요. 私の弟ではありません。

⑨の43頁 내 동생 모자는 파랑입니다. 私の弟の帽子は青いです。

以上のように동생は弟に訳されている。⑦の場合は、他に98、114、115、163、168、199頁に、⑨の場合はIの82、IIの90、116頁にも同じく동생を弟と訳している。

### 3. 2. 2 会話などに出てくる登場人物の状況

本稿で取り上げた韓国語の教科書は入門書であって、文字や発音を習い、簡単な会話文を紹介していることが多い。特に「しっかり学ぶ韓国語」の場合は文法と練習問題が中心となっていて会話文は一切挙げていない。したがって、本稿ではジェンダー・バイアス的な表現が組み込まれていると思われる会話では主に誘う場面において、誰から誰へ誘っているのかを見ることにする。また、会話、文型、文法説明の例文などで見られる男女差に関わる表現を調査する。

#### ◆誘う場面

##### ①「はじめての韓国語」

男性から女性へ：喫茶店に行く (p.84)、食事に行く (p.88)

女性から女性へ：コンビニに行く (p.80)、カラオケに行く (p.96)、  
野球の試合を見に行く (p.144)

##### ②「フリーウェイ韓国語」

女性から男性へ：喫茶店へ行く (p.84)

女性から女性へ：パーティーへ行く (p.88)

女性・男性から女性へ：野球の試合を見に行く (p.102)

##### ③「コミュニケーション韓国語」

女性から男性へ：誕生日パーティー (p.66)

##### ④「スタンダードハングル講座」

女性から女性へ：食事に行く (p.206)

##### ⑤「今すぐ話せる韓国語」

男性から女性へ：野球の試合を見に行く (p.46)

女性から男性へ：映画を見に行く (p.52)

##### ⑥「書いて覚える朝鮮語」

男性から女性へ：喫茶店に行く (p.66)

##### ⑧「初めての韓国語」

男性から女性へ：食事に行く (p.79)

##### ⑨「韓国語レッスン初級 I II」

女性から男性へ：登山に行く (I p.77)、食事に招待する (II p.31)、

シルム (韓国相撲) を見に行く (Ⅱp.101)

全体的に見ると、誘い表現のパターンは男性から女性へ、女性から男性へ、そして女性から女性へ、の大きく3つのパターンに区別することができた。男性から女性へは6ヶ所、女性から男性へは6ヶ所、女性から女性へが5ヶ所あった。そして、男性であるか女性であるか区別ができない친구 (友達) から女性へが1ヶ所現れた。面白いことに男性から男性への誘いの場面は一ヶ所も見当たらなかった。

◆会話・文型・例文の中での男女差に関する表現

② 「フリーウェイ韓国語」

- 1) 남편 되시는 분은 뭘 하고 계세요? (p.154)  
(ご主人は何をされていらっしゃいますか。)
- 2) 아버님께서는 뭘 하고 계십니까?  
(お父さんは何をされていらっしゃいますか。)

⑥ 「書いて覚える朝鮮語」

- 독신남자를 총각이라고도 합니다. (p.61)  
(独身男性を총각ともいいます。)

⑦ 「しっかり学ぶ韓国語」

- 어머니가 아이를 위해 요리를 만드셨습니다. (p.265)  
(お母さんがこどものために料理を作りました。)

⑨ 「韓国語レッスン初級Ⅱ」

- 1) 우리 집 사람은 요리보다 청소를 좋아해요 (p.16)  
(家内は料理より掃除が好きです。)
- 2) 결혼할 여자는 어떤 사람입니까? 얼굴도 예쁘고 마음도 착해요. (p.30)  
(結婚する女性はどんな人ですか。顔もきれいで心も優しいです。)
- 3) 어떤 남자를 좋아하세요? 건강하고 유머가 있는 사람을 좋아해요. (p.30)  
(どんな男性が好きですか。健康でユーモアがある人が好きです。)
- 4) 그 부부는 뭘 하는 분들이세요?  
(その夫婦は何をしている方々ですか。)  
남편은 교수이고 부인은 방송국에서 일하고 있지요. (p.30)  
(主人は教授で、奥さんは放送局で働いています。)
- 5) 다나카씨는 휴일에 주로 뭘 하세요?  
(田中さんは休日、何をしますか。)  
집에서 빨래도 하고 청소도 하지요. (31頁) (p.31)  
(家で洗濯をしたり、掃除をします。)
- 6) 아버지께서는 의사시고, 어머니께서는 가정주부십니다. (p.34)  
(お父さんは医者で、お母さんは主婦です。)

- 7) 그 남자는 어때요? 키가 크고 멋있다. (p.38)  
(その人はどうですか。背が高くてかっこいいです。)
- 8) 아이가 있다 / 주부는 언제나 바빠요. (p.39)  
(子供がいる / 主婦はいつも忙しい)
- 9) 지금 낀 장갑 멋있는데 어디서 샀어요? 아내가 짜 주었습니다. (p.40)  
(今はめている手袋はどこで買いましたか。家内が編んでくれました。)
- 10) 장갑을 짜다 (어머니) / 어머니가 장갑을 짜 주셨어요. (p.48)  
(手袋を編む お母さん / お母さんが手袋を編んでくれました。)
- 11) 춥지만 치마를 입을래요. (p.77)  
(寒いけどスカートをはきます。)
- 12) 어머니는 운전할 줄 알아요? (아뇨) (p.78)  
(お母さんは運転できますか。いいえ)
- 13) 남편께서는 일요일에도 회사에 가세요?  
(旦那さんは日曜日にも会社に行きますか。)  
요즘 회사 일이 아주 바쁜 것 같아요. (p.100)  
(最近仕事が忙しいみたいです。)
- 14) 이영숙씨는 아직 미혼이에요?  
(イヨンスクさんは未婚ですか。)  
결혼한 것 같아요. 반지를 끼고 있잖아요. (p.100)
- 15) 엄마가 아기한테 밥을 먹이고 있어요. (p.100)  
(お母さんが子供にご飯を食べさせています。)
- 16) 어머니가 아기에게 옷을 입혀요. (p.138)  
(お母さんが赤ちゃんに服を着せます。)
- 17) 그리고 최영희 씨가 결혼하는 건 아세요?  
(それからチェヨンヒさんが結婚するのは知ってますか。)  
그 소문은 들었어요. 결혼을 하면 회사를 그만둔다고 하지요?  
(そううわさは聞きました。結婚したら会社をやめるそうですね。)  
네. 남편을 따라서 영국에 간대요. (p.141)  
(はい、ご主人についてイギリスに行くんですって。)

会話・文型・例文の中でいちばん多くジェンダー・バイアス的な表現が組み込まれていたのが⑨の「韓国語レッスン初級」である。まず、4)、6)のように男性は教授や医者であるのに対し、女性は主婦や会社員となっている。このような男女の職業を区別して載せている教材は①②③にも現れている。

次に上げられるのが男女の役割である。上記の例を見ると、やさしくきれいで、子供の世話をしっかりし、主人を支えることが女性のやるべきことのように描かれている。同じく男性は家族を支えるために仕事をし、健康で力強いのが男性のあるべき姿として描かれてい

る。

最後に14)の結婚=指輪のようにステレオタイプ的な表現も何ヶ所が現れている。しかし、ここにジェンダー・バイアス的な表現があるとは言えない。

### 3. 2. 3 挿絵

分析の対象である9種類の中で挿絵があるのは6種類だけであった。したがって、本稿の挿絵の分析対象となるのは①②③⑤⑥⑨である。挿絵の中にはジェンダー・バイアス的な表現が組み込まれていると考えられる。

①の「はじめての韓国語」では本文会話で挿絵が添えられていることが多かったが、主に職業を男性の職業、女性の職業のように区別して描いている。

例えば、タクシー運転手 (p.41、p.67)、バス運転手 (p.60)、駅員さん (p.57) は男性で、郵便局の人 (p.105)、薬局の人 (p.109)、ショップの店員 (p.116、p.117、p.121、p.124、p.128) は女性で描かれている。挿絵を通していかにも男性のする仕事と女性のする仕事を分けている。

他に銀行員 (p.36) を男性に、医者 (p.113) を女性に描いている部分もあるが、ほとんどの場合、職業を男女に分けて描いている。

②では職業だけではなく、役割においても男女を分けている。まず、職業では、教授 (p.65)、駅員さん、新聞配達の子 (p.101) は男性で、ショップの店員 (p.72)、食堂の従業員 (p.82)、売店の店員 (p.82) は女性である。普通男性の職業であると思われるタクシー運転手 (p.75) は女性で描いているのが印象的である。

つぎに、男女の役割である。一般的に外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性がするものであると考えている人が多い。40頁を見ると、食事をしている場面で、料理をしている人は女性である。また、43頁にも掃除、洗濯、アイロンをかける人は女性で描かれている。そして、72頁でもスーパーで買い物をする人も女性である。これは家庭の仕事は女性の役割であるという固定的な考え方が組み込まれているのである。

③でも②と同じく職業及び役割を男女で分けているように見える。まず、教授 (p.19)、警察官、スポーツ選手、芸術家 (p.93) は男性に、看護師、客室乗務員、芸能人 (p.93) は女性になっている。次に役割を観点から見ると、12頁のでは、お母さんは赤ちゃんを抱っこしている姿で描かれている。また、24頁では、「安い、買う」の語彙を説明しているが、そのとき、買い物に行くのは女性である。また、家族写真の絵では弟は野球ボールを妹はぬいぐるみを持っている。(p.45) そして、お酒を飲めるかの質問で飲めないと答えている人も女性になっている。

⑤の「今すぐ話せる韓国語」では面白い結果が出た。挿絵で現れたすべての職業は男性で描かれている。レストランの店員 (p.43)、客室乗務員 (p.78)、旅館の従業員 (p.91)、タクシー運転手 (p.105)、ショップの店員 (p.129)、郵便局の人 (p.135)、医者 (p.141)、航空会社職員 (p.147) など、すべて男性である。⑥の「書いて覚える初級朝鮮語」では本文の会話でちょっとした挿絵があるだけで、写真が多く使われている。92頁のレストランの店員は男

性として描かれているが、これはジェンダー・バイアス的な表現ではないと思われる。単に、レストランに来たお客さんが女性であるため、店員を男性で描いたと思われる。

⑨の「韓国語レッスン初級Ⅰ・Ⅱ」では本文、練習問題で挿絵が多く使われている。主に職業で男女がはっきり分かれている。時計店の店員（Ⅰp.67）、美術館職員（Ⅰp.87）、美容師（Ⅱp.41）、旅行ガイド（Ⅱp.149）は女性で、会社員（Ⅰp.55）、銀行員（Ⅰp.55）、教授（Ⅰp.55）、医者（Ⅰp.55、p.127）、社長（Ⅰp.134）、先生（Ⅰp.134、Ⅱp.58、p.148、p.149）、配達員（Ⅱp.71）、警察（Ⅱp.91、p.148）は男性になっている。先生は他の教科書では男性であったり女性であったりしたが、ここではすべて男性で描かれている。このように男性の仕事、女性の仕事をはっきり分けて描いていると思われる。

また、タバコを吸う人（Ⅱp.88、p.158）は男性になっているが、近年タバコを吸っている女性が増えていることから見るとタバコを吸っている人を男性だけで表現するのはある固定的なイメージが組み込まれていると思われる。

興味深かったのは、挿絵のすべての教材で韓国人を表す時に韓服（チマチョゴリ）を着た女性になっている。①②⑤では表紙に韓服の女性が、③⑥⑨では韓国人を、韓服を着たおばあさん、おじいさんで表し、料理を作るお母さん、空港にお送りに来る女性も韓服姿で表している。これは学習者にとっては韓国人、特に女性は常に韓服姿で生活しているのではないかという誤解を招く恐れがあると思われる。

#### 4. 考察

上の結果から以下のようにまとめることができる。

##### ①言語的な表現：

日本語の教科書の場合、男女差を固定的に取り扱っているものは見当たらなかった。ところが、韓国語の教科書の場合、「동생」を日本語で訳す時が問題となる。分析対象のなった教科書に半数以上で「동생」を弟として訳している。これは、田中・他（1998）が新聞の表現で指摘している、「高校生」、「行員」「教師」と表記すると男性で、女性の場合はすべてマークが付加された「女子高校生」「女子行員」「女性教師」と表現されるのと似ている。（注3）日本語訳に問題があり、「동생」は妹・弟両方使われることを説明し、日本語訳をつける場合は、弟・妹両方提示するのが中立的な扱いと言えらるだろう。

##### ②会話などに出てくる登場人物の状況：

日本語の教科書も韓国語の教科書も、職場及び家庭における男女差の固定的な考えが表現として現れている。すでに述べたことであるが、男性であれば、教授、医者、先生で、女性の職業としては主婦、先生、看護師などと男性の仕事、女性の仕事を分けて挙げていると考えられる。

また、女性は主婦で奥さん、お母さんとしての役割が強調され、男性は経済力のある、家

---

（注3）田中・他（1998）pp.94-100

庭を支える主人、お父さんとしての状況を例文としてあげている。仕事や家庭での男女の境界が薄くなった今日、このような例文は時代を逆行しているように思える。ただし、日本語の教科書の場合、改訂版などによって中立的な表現に置き換えようと配慮している。

③挿絵：

同じく職業や男女の役割でジェンダー・バイアス的な表現が見られた。教授、医者、警察官、駅員、スポーツ選手などは男性が描かれていて、看護師、ショップの店員、美容師、客室乗務員はほとんど女性になっている。韓国語の教科書では、⑤のように会話の中の主人公が女性であることから相手となる役をすべて男性にした教材も見られた。男女の役割においても女性は買い物に行ったり、掃除・洗濯などの家庭の仕事をしたり、赤ちゃんの世話をする場面が描かれている。これは、女性は家の中にいる人であるとの観念が組み込まれていると思われる。反対に、タバコを吸う人がすべて男性になっているのも男女差について固定的な扱いをしていると思われる。

語学教師として注意しておかなければならないのは、気づきにくい状況や挿絵の中に埋め込まれたジェンダー・バイアス的な表現である。言語と文化は表裏一体の部分も存在するため、語学教育において教授者も学習者も無意識の中に男女差について固定的な考えを持ってしまう場合がある。教科書そのものの改善も重要な課題であるが、教育の現場にいる語学教師が固定的な考え方が埋め込まれている挿絵などの存在を意識し、適切な説明を付け加えることが最も重要であると考えられる。そのためには、教授者が、男女差のみならず文化差などに対して、固定的または偏見的な考えに対して敏感な感覚を身につけることが必要であると考えられ、そのような教師研修プログラムを確立していかなければならない。

また、ヨーロッパなどでは、語学の教科書に対して一定の基準枠（注4）があり、その基準枠の一つとして、教科書に掲載されている写真や絵、グラフなどの統計が現実を反映されているかどうか、女性や民族に対する偏見的な考えがないか、などの基準がある。今回取り上げたような教科書にこのような基準が必要かどうかは、今後議論をしていかなければならないが、教科書を選択する教授者や学習者にとって参考となるガイドラインがあればより固定的な考えに対する意識化が進んでいくであろう。

## 5. 今後の課題

本稿では、野呂の指摘をきっかけとして試験的に日本国内で利用されている語学教科書の状況を調べた。ジェンダー・バイアス的な表現についてのみ着目したが、このような差や本

---

（注4）1974年に労働社会省の出資によって設立された「外国人労働者のためのドイツ語協会」（現在、ドイツ連邦共和国政府難民認定局の一部門に統合された）では外国人労働者向けのドイツ語教材に適しているかどうかをチェックする基準を設定している。EUの言語に関する委員会（The Council of Europe の言語委員会）では、教材作成の際に参考になるような語学教育に関する基準枠がある。

質についての固定的な考え方は文化・習慣などにもあてはまることである。日本は、地域に在住するさまざまな文化的背景の人々がさらに増加すると予測されている。

このような状況下で、語学教師は単に言葉を教えるだけでなく、さまざまな差に対する表現や描写に敏感でなければならないと考える。

よって、今後以下のような課題について研究をすすめていく予定である。

1. ジェンダー・バイアスの表現に限らず、文化・習慣を含めた「差」に対する固定的な考えを教授者がどのように克服していくか：教材の扱い方、教授法、教師トレーニングの内容についての検討及び考察。
2. 教科書に対する基準枠をどうとらえるか：教科書作成や教科書使用にあたり、基準枠が必要かどうか、必要ならば、どのような枠組みを考えるべきか。

(引用文献)

田所宏之 (2005) 「日本の学校における韓国朝鮮語教育：大学等と高等学校の現況と課題」財団法人国際文化フォーラム

田中和子・女性と新聞メディア研究会 (1998) 「新聞は女性をどのように表現しているかー「新聞紙面にあらわれたジェンダー」1996年調査よりー」国学院法学第36巻第1号pp.85-150、国学院大学法学会

野呂香代子 (2001) 「クリティカル・ディスコース・アナリシス」『「正しさ」への問いー批判的言語学の試みー』三元社